

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和8年5月14日（木）

2 確認箇所

覆土式一時保管施設（瓦礫類一時保管エリアL）（図1）

3 確認項目

覆土式一時保管施設（瓦礫類一時保管エリアL）解消作業の状況

4 確認結果の概要

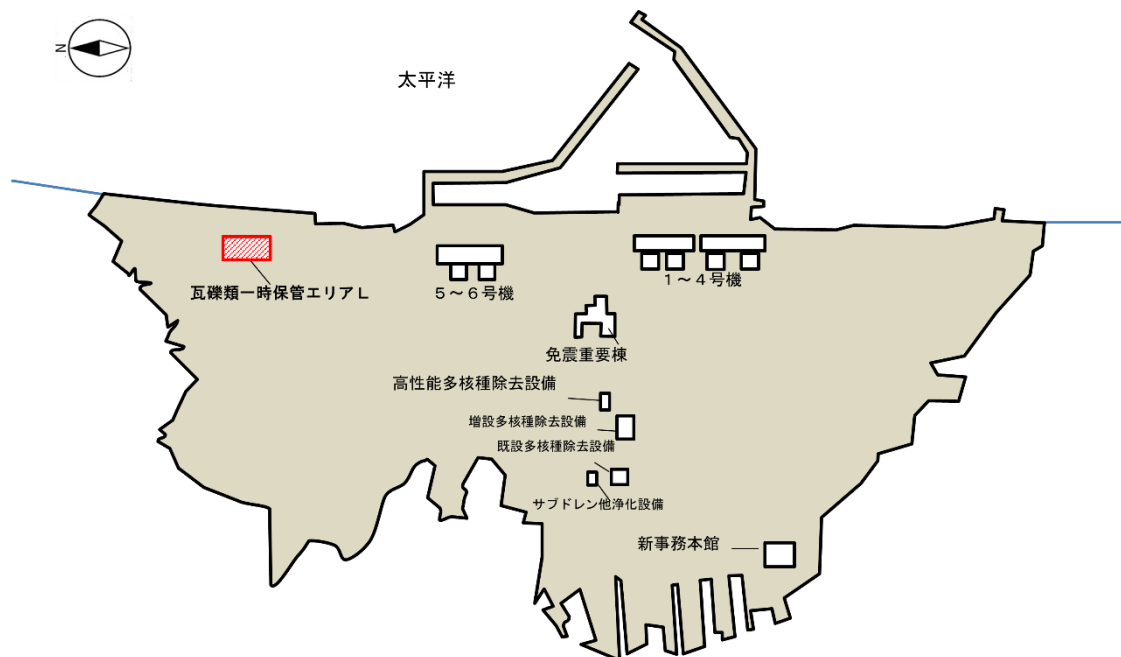
東京電力は、水処理二次廃棄物及び再利用・再使用対象を除く全ての固体廃棄物の屋外における一時保管を令和10年度中に解消することを目指している。それに向けた取組の一環として、覆土式一時保管施設※（瓦礫類一時保管エリアL）に一時保管された瓦礫類を取り出し、金属容器へ収納した後、固体廃棄物貯蔵庫での保管を計画している。

当該エリア内には、第1槽から第4槽までの計4つの一時保管槽が設置されており、このうち第4槽から、瓦礫類の撤去作業が行われていることから、今回、その状況を確認した。（前回確認：[令和8年3月27日](#)）

- ・放射性物質の環境への飛散を抑制するため、第4槽を覆う形でハウスが設置されており、ハウス内において土砂の撤去作業が実施されていた。（写真1）
- ・第4槽の北側には仮設ハウスが設置されており、仮設ハウス内には第4槽の作業状況を確認するためのモニタが設置されていた。（写真2）
- ・連続ダストモニタにより、ハウス内やその周辺の空気中放射性物質濃度が測定されていた。指示値を確認したところ、いずれの場所においても異常は認められなかった。
- ・第4槽近傍の空間線量率は $0.4 \mu\text{Sv/h}$ であった。（写真3）
- ・第4槽を覆うハウスに破損等の異常は認められなかった。また、第1槽から第3槽について目視で確認した範囲では、シーートの剥がれや瓦礫類の飛散・流出等の異常は認められなかった。（写真4）

※ 覆土式一時保管施設

高線量（ $\sim 30 \text{ mSv/h}$ ）の金属やコンクリート等の瓦礫類に覆土遮へいを施した一時保管エリア。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1) 第4槽を覆うハウス



(写真2) 仮設ハウス内のモニタ
※ハウス内の作業を映したモニタ



(写真3) 第4槽近傍の空間線量率
※指示値：0.4 $\mu\text{Sv/h}$



(写真4) 第3槽の状況

5 プラント関連パラメータ等確認

確認したデータについて、異常値は確認されなかった。